
羽のない少女達

麻未夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

羽のない少女達

【Nコード】

N0598P

【作者名】

麻未夢

【あらすじ】

転校生の背中には白い羽があった。それは彼女たちにしか見えず、彼女たちはそれを『私たちだけの秘密』にした。そして彼女たちは、転校生を屋上へと連れ出す。

その転校生の背中には、白い羽が生えていた。

ざわめく私たちに怪訝な顔を見せる先生。どうやら先生には、その羽が見えてはいないらしい。

それに気づいた私たちは、すぐに唇を閉ざした。

ざわめきの消えた教室で、先生が転校生の名前を白いチョークで黒板に書く、カツカツとした音だけが響いている。けれど、私たちはそんな物は気にも留めないで、ただ転校生を見つめるばかり。

「よろしく願います」

呟くようにそれだけ言つて、彼女は私たちに小さな会釈をした。

私たちはそれに、口々に「よろしく」と返し、それでホームルームは終わり。

転校生の席は、窓際の一番後ろ。

「一番前の席じゃなくて良かったよね」

誰かが小声で呟いた。

そこでチャイムが鳴り、ほとんど同時に先生が教室に入ってくる。私たちは、彼女の羽の事を先生達に話す気はなかった。もつとも、話したところで彼らにそれは見えないのだから、誰も信じてはくれなかっただろう。

案の定、この先生にも転校生の羽は見えていないようだ。出席簿を見て転校生の名前を確認しただけで、すぐに授業に入ってしまう。

私たちは、何故だかそれがとても嬉しかった。

「他のクラスの人にも見えてないみたい」

休み時間に入り、誰からともなく集まり始めて、いつの間に確かめたのだから誰かがそう言つと、私たちは益々嬉しくなつて口々にこゝろ提案する。

「私たちだけの秘密だからね」

私たちは一斉に頷き、そして教室の隅で窓の外を眺める転校生に

視線を向けた。

「あの羽で、飛べるのかな」

「人間が飛ぶとなると、もっと大きな羽が必要なんじゃない？」

「でも、あの子って人間なの？」

「天使かも」

誰かが言った。

放課後、私たちは転校生を誘って屋上に上った。

彼女は柵に身体を預けるようにして、空を見上げている。

「飛びたいんじゃない？」

誰かが言った。

私たちはゆっくり彼女の背後に忍び寄り、彼女の背中を押した。

彼女は叫び声もあげずに落ちていく。

地面に落ちて真っ赤に染まった彼女の背中に、白い羽は無かった。

「誰よ、天使なんて言ったの」

「私じゃないわよ」

「何だったのかしらね、彼女」

すぐに血相を変えた先生達が屋上に来て、私たちを見つけ、何が
あったのかと問いただしてくる。

勿論、私たちは何も答えなかった。

だって、彼女に白い羽が生えていた事は、私たちだけの秘密なん
だから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0598p/>

羽のない少女達

2010年11月30日16時37分発行